

## 内外動向

# 第15回“アジア環境アセスメント会議 AIC2022”オンライン開催報告

川村 昂 史\*・赤松 宏 典\*\*

## 1. 概要

2022年9月16日から18日までの3日間、第15回アジア環境アセスメント会議（AIC2022）がオンライン開催された。3日間の大会で、116名（内訳：日本より53名、韓国より26名、中国より22名、ラオスより3名、パキスタンより3名、モンゴルより2名、インドネシアより2名、ガーナより2名、香港より1名、ロシアより1名、モルディブより1名）の参加があり、43件（口頭発表32件、ポスター発表11件）の研究発表が行われ、たいへん盛況なうちに閉会した。

大会実行委員長は当学会常務理事で国際交流委員長の田中章氏（東京都市大学）が務めた。また、環境省、独立行政法人国際協力機構（JICA）、公益財団法人地球環境戦略研究機関（IGES）、株式会社国際協力銀行（JBIC）、独立行政法人日本貿易振興機構（JETRO）、一般社団法人日本環境アセスメント協会（JEAS）より後援を受けた。

当大会は当初、島根県松江市で開催の準備を進めていたが、昨年の韓国大会に引き続きCOVID-19の感染拡大によりやむなくオンライン開催となった。そのため急遽、大会実行委員長の東京都市大学田中

章研究室が機器・ONLINE運営の基地となったが、準備から当日の運用まで所属学生たちが全面的に貢献したことを特記しておく。

## 2. AIC 会議の背景と趣旨

AIC はアジアの研究者、実務者、学生間の交流を目的とした、通訳なしの英語による国際会議で、原科前国際交流委員長が2003年に日本で日韓会議を開催以来、今回で15回目となる。2011年に中国が、2017年にベトナムが加わり、2018年静岡大会からは広くアジア諸国との交流も歓迎しようということで、田中国際交流委員長がアジア環境アセスメント会議（Asia Impact assessment Conference, AIC）と命名した経緯がある。

## 3. オープニングプレナリー（1日目）

午前10時、源氏田尚子氏（IGES）による総司会でオープニングプレナリーが開始された。

田中章実行委員長により開会宣言が行われた後、最初に日本を代表して藤田八暉氏（本学会長）、相澤寛史氏（環境省環境影響審査室長）からの挨拶があった。次に、韓国を代表してYoungsoo LEE氏（韓国環境アセスメント学会会長）、中国を代表して



写真 AIC2022 オープニングでの集合写真

\*AIC2022 運営委員長，東京都市大学大学院環境情報学研究科

\*\* 国際交流委員会幹事，株式会社グリーンパワーインベストメント

Wei LI 氏（北京師範大学教授）からそれぞれ挨拶を頂戴した。また、本学会設立 20 周年記念の特別講演として田中充氏（法政大学）から当学会の 20 年のあゆみが紹介された。オンライン開催ではあったが冒頭から国際的な雰囲気の中、大会が始まった。

#### 4. 口頭発表およびポスターセッション（1 日目, 2 日目, 3 日目）

口頭発表セッションは 1 日目午前, 2 日目全日, 3 日目午前に行われた。3 日間を通して各国の SEA/EIA, 生態系, 公害防止, 再生可能エネルギー, 国際協力などに関する 32 件の発表があった。

ポスターセッションは 3 日目午後に行われ, 公害防止, 生態系などに関する発表が 11 件あった。前回の韓国大会の経験を活かして発表動画は事前に大会事務局に送付するなどの準備をしていたこと, 日韓中 3 か国からのチェアパーソンによる適正な運営がされたことで, 映像や会話が途切れるなどの問題は起こらず, 活気のあるやり取りとなり時間通りに進行した。

#### 5. クロージングプレナリー（3 日目）

オープニングプレナリー同様, 源氏田氏の総司会でクロージングプレナリーが開始された。

まず, セッション毎にチェアパーソンによって厳正に選出された優秀発表者 9 名の発表と表彰が行わ

れた（表参照）。各発表は事前送付の動画によるものであったが, 英語でのリアルタイムの質疑応答が評価された傾向があるように感じた。

次に田中章実行委員長より閉会の挨拶があった。今年のテーマの「トランジション時代の環境アセスメント」について, 地球環境問題の 2 大課題である気候変動と生物多様性（生態系保全）は, これまで前者に対する行動に比べ後者が遅れていること, 今後は両者を同時に考える時代に移行すべきで, その重要な役割を環境アセスメントは担っており, その鍵はミティゲーションにある, との思いが含まれていると説明された。また, 前回のコロナ蔓延の深刻な中で韓国大会開催について韓国関係者への感謝の言葉が述べられた。

最後に 2023 年中国開催の AIC2023 について, 中国吉林大学の Chunsheng FANG 教授が実行委員長として開催する告知があった。オンライン開催となったが, 11 か国 116 名の参加と 43 件の発表となり, 盛況の中, AIC2022 は無事, 閉会した。

本大会プログラム及びプロシーディングス, ポスターについては以下の当学会国際交流委員会ウェブサイトに掲載している。

[http://www.jsia.net/3\\_activity/koryu/Japanese/AIC2022/schedule.html](http://www.jsia.net/3_activity/koryu/Japanese/AIC2022/schedule.html)

表 AIG2022 での優秀発表者賞を受賞した発表

セッション セッションチェア	受賞者	国	所属	発表タイトル
A (口頭発表) Yuta FUKUDA	Thodsakhone RAZMOUNRY	ラオス	Vientiane Transport Master Plan Study Team Office	Development of Participatory SEA Framework Case Study of Stakeholder Analysis for Updating Vientiane Transport Master Plan Study under COVID-19 Pandemic Situation
B (口頭発表) Myungjin KIM	Leah HAN	韓国	The University of Tokyo	Identifying the Bottleneck in the Adoption of Biodiversity Offsets in EIA Systems of Japan
C (口頭発表) Jing WU	Hanzhong ZHENG	中国	Beijing Normal University	Unbalanced PM2.5 emission and happiness effect through cross-regional trade in China
D (口頭発表) Yuki SHIBATA	Yuki INOUE	日本	Tokyo City University	Study on Biodiversity Offsets requirement of Multilateral Development Banks in Asia
E (口頭発表) Juchul JUNG	Chun CHEN	中国	Tokyo City University	A Study on the Trend of Biodiversity Offsets in China
F (口頭発表) Chunsheng FANG	Rongwu YUE	中国	Beijing Normal University	Research on the driving factors and its interaction effects of ecosystem service value in Hohhot-Baotou-Ordos-Yulin urban agglomeration
G (口頭発表) Jin-Oh KIM	Yuta FUKUDA	日本	Nippon Koei Co., Ltd.	An interim report of the river restoration project by supplying sediment at downstream of Obara Dam
H (ポスター発表) Noriaki MURASE	Takafumi KAWAMURA	日本	Tokyo City University	Trends and Challenges of Area-based Biodiversity Conservation in Japan
I (ポスター発表) Renzhi LIU	Sle-gee LEE	韓国	Chonnam National University	Improvement and application of IPCC Tier 2 method for quantification of carbon absorption in grassland biomass